

甘藷新品種「ベニワセ」について

坂井健吉・白坂 進・丸峯正吉
 広崎昭太・井手義人
 (九州農業試験場)

SAKAI, K., SHIRASAKA, S., MARUMINE, S., HIROSAKI, S., IDE, Y.
 A New Variety of Sweet Potato. "Beniwase"

1. ま え が き

近年青果用早掘甘藷の需要量は減少したが、なお一部農家では有利な換金作物となつている。早掘甘藷は高系 14 号 (俗称コトブキ)、俗称 4-33、紅農林等の如く色沢、形状等外観が優れ味のよいものが歓迎される。しかしかように品質の優れたものは早掘収量が少い。一方、早掘収量の多いフクワセ、沖繩 100 号等は品質が優れない。そこで両方の形質を具備した品種が要望される。本品種はこの目的のために育成されたものであり、昭和 36 年度より佐賀県において奨励品種に採用され、同年 5 月通称名をベニワセ、登録番号を甘藷農林 23 号として普及されるに至つた。ここに育成の経過ならびに特性の概要を記して参考にする。

2. 来歴および育成経過

ベニワセは昭和 28 年農林省九州農業試験場指宿試験地において関東 33 号×フクワセの組合せで交配し、得た種子を翌 29 年熊本県農業試験場甘藷斑紋バイラス病隔離圃場において播種、同地で選抜試験を 2 年行ない、鹿系 8-18 なる系統名を附して 31 年九州農試鹿児島試験地に移し同地でさらに 2 年選抜試験を行なつた。

その後同試験地の熊本移転に伴い九州農試作物第二部 (熊本) で生産力検定試験を行ない、優良と認められたので 34 年「九州 32 号」の系統名を付して関係県に配布し地方的適否を確かめた。その結果成績良好で 36 年 5 月新品種になつた。なお本品種は育種の場合すべて早植早掘において選抜を重ねたものである。

3. 特性概要

萌芽性は良好であるが、萌芽数がやや少い。蔓の伸びはよく草勢は強い。草型は匍匐性で分枝数も多く、初期生育は良好である。極端な繁茂型ではないので

“蔓ボケ”の懸念はない。藷は下膨紡錘形または紡錘形でよく整い、早掘した場合の藷の大きさは中位で粒揃いもよい。藷の皮色は紅で、肉色は淡黄、条溝は無か極浅で外観は良好である。蒸藷の肉色は黄で、肉質はやや粉質、食味は中の上でフクワセに優るがコトブキにはやや劣る。貯蔵は比較的容易である。病虫害抵抗性では蔓割病に強く、藷は黒斑病には中もしくは強、根腐線虫には中である。早掘した場合の収量は現存品種中最高であり、従来最も多かつたフクワセに比し 1 割以上、4-33 に比し 3 割、コトブキに比し 6 割程度の増収性を示す。普通栽培、晩植栽培した場合の収量も比較的多く農林 2 号に遜色はない。但し切干歩合、澱粉歩留りは低い。配布先における概評は表のとおりである。

4. 適地ならびに栽培上の注意

育苗は容易であるが、早掘栽培では温床ビニール育苗がよく、麦間挿苗を行なうのがよい。一般に遅掘りすると形が崩れる傾向があるが、本品種もこの点注意を要する。早掘した場合の多収性を活かしコトブキや 4-33 の出廻り以前に出荷するのがよく、かくすることにより一属この品種の特性が発揮されよう。なおまた、この特性を活用して短期栽培用として、作付体系の中に随時挿入し、飼料用として利用するのに好適する。この点で広く温暖な西日本畑作地帯に普及が見込まれる。

配布先における早掘成績 良(○印)、中(△印)、劣(×印)

県名	収量	外観	食味	概評
愛高	○	△	△	有望(飼料用) 再極(検用品種) 再極(奨励品) 再極(検用品種) 再極(検用品種) 再極(検用品種)
福岡	○	○	○	
佐賀	○	△	△	
長門	△	△	△	
熊本	△	△	△	
分岐	○	○	○	
大分	○	○	○	
宮崎	○	○	○	
鹿児島	○	○	○	
鹿児島	○	○	○	